

## 画期的な出来事の初め

## マルコ1:1~8 / 李正雨師

待降節は、いかがお過ごしでしょうか。私も待降節らしく過ごしています。思ったよりあちこちにしなければならないことが多く、自動的に苦難と沈黙の中でバタバタして過ごしています。世の中には運命というものがありますよね。私は運命を信頼していませんが、もし運命があれば、私は仕事の多い運命のようです。飯能教会に来る前も、日本に来る前も、いつも仕事が多かったのです。そして飯能教会でも、待降節を過ごしている今でも、仕事が多いのです。それで、時には空を見て、ぶつぶつ不平を言うこともあります。しかし、そのたびに心の中から「イエス様がこの世でどうお働きになったの？」という声が聞こえます。先週の水曜日の黙想会でも、イエス様が「日中は神殿の境内で教えられた」という言葉が心の中に残りました。こういうことだけが思い浮かんでいるのを見ると、私は仕事の多い運命を持っていると思います。お陰様で残った待降節も、恵みの中で忙しく過ごせるようです。早く主が来られたらと思います。

今日、私たちに与えられた福音書の言葉は、マルコによる福音書の序論に該当する言葉です。多くの人々は、福音書がマタイによる福音書から始まるので、マタイによる福音書が一番最初に書かれた福音書だと思っています。しかし、福音書の中では、マルコによる福音書が最初に書かれ、マタイによる福音書とルカによる福音書は、マルコによる福音書を参考にして書かれたというのが大勢の意見、衆論です。最初に書かれた福音書であるマルコによる福音書は、こう始まります。1節の言葉です。「神の子イエス・キリストの福音の初め。」

私たちが読んでいる日本語の聖書では、「神の子」という言葉が最初に出て来ます。しかし、原文には「初め」という言葉が最初に出てきます。原文を私たちの文法に合わせてそのまま翻訳すると、次のようになります。「初め、福音の、イエス・キリスト、神の子」。ここで「初め」という言葉は、ギリシャ語で「アルケ (ἀρχή)」と言います。そして、この「アルケ (ἀρχή)」は、旧約聖書 (七十人訳聖書) の最初の巻である創世記の最初の言葉でもあります。これは、イエス様の福音の初めがこの世の初めに劣らないということを表すことだと思います。それほど、イエス様の登場と福音は画期的なことであり、過去の信仰の様式ではなく、新しい信仰のパラダイムを提示することでした。律法ではなく福音の初め。これが最初の福音書の最初の文です。そしてマルコによる福音書の著者は、このすべてが預言されていることであることを読者に知らせます。今日の福音書2~3節の言葉です。「預言者イザヤの書にこう書いてある。『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』』」

新約聖書又はイエス様の福音だといって、過去を否定するわけではありません。イエス様によって過去は否定され、新しいことだけが認められたとしたら、私たちにとって旧約聖書は、要らないものになるでしょう。しかし、過去の教会から現在の教会に至るまで、教会は旧約聖書、新約聖書の両方を神の言葉として受け入れています。そして、これを証明するように、マルコによる福音書はイエス様の福音の初めが旧約聖書の預言から始まったことを教えてくれます。神様は預言者イザヤを通して、神の子、メシアがこの世に来られると言われます。メシアが来る前にメシアの道を準備する人もいるとおっしゃいます。そして、荒れ野で叫ぶ者の声、洗礼者ヨハネがメシアの道を準備する人だったと今日の福音書は語っています。

ところが、洗礼者ヨハネがした準備は、当時の人々の目には不思議なことでした。今日の福音書4節を見てください。「洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。」洗礼者ヨハネの準備は、罪の赦しのための洗礼、悔い改めの洗礼でした。そして今の私たちにとってこの4節の言葉は、理解しにくい言葉ではありません。メシアの降臨の前、悔い改めを促すことは、キリスト教の信仰では当然のことだからです。しかし、当時の人々にとっては、理解できないものでした。なぜなら、彼らのメシアは、自分の民らに悔い改めを求めるメシアではなかったからです。当時のユダヤ人が待っていたメシアは、自分のために他の国、特にローマと戦ってくれるメシアでした。しかし、メシアの道を準備しているという預言者が求めたのは、悔い改めでした。そして彼らは、自分たちが悔い改めを求められるとは、全然思っていなかったと思います。

先週のニュースで、私はイスラエルがハマスの指揮官を除くために総攻撃したというニュースを聞きました。そして、地下トンネルに隠れたハマスの兵士を殺すために、地下トンネルに海水を入れるというニュースも聞きました。ハマスの兵士たちがイスラエルの民間人を殺してレイプしたというニュース、ほぼ2万人に達する人々が今回の戦争によって殺されたというニュースも聞きました。本当に残酷なことが起こっています。それで、世界中の多くの人々は、この戦争が止むことを願い、祈っています。しかし、この戦争の当事者は、どんな祈りをしているのでしょうか。戦争が止むことを願っているのでしょうか。それとも、自分の神が自分の軍隊を助けてくれることを願っているのでしょうか。私は、もし神様がこの戦争に与るとしたら、彼らに悔い改めを求めると思います。どちらか一方に勝利が与えられるとしても、それは神様の御心ではないし、彼らのためのことでもないからです。イスラエルとハマスのみではないでしょう。この世で起きているすべての戦争と戦いに、神様は悔い改めを求められるでしょう。なぜなら、悔い改めによって得られる罪の赦しだけが彼らを救ってくれるからです。

洗礼者ヨハネが当時の人々に悔い改めを求めたことも、これと同じだと思います。彼らにとって本当に必要なものは、ローマに対する勝利や独立などではありませんでした。神様に選ばれた民族である彼らに必要なことは、メシアの道を準備するために罪の赦しを得ることでした。自分たちの欲望による罪、神様の御名で行われた様々な悪に対して、赦しを受けなければなりません。それで、メシアの道を準備していた預言者は、人々に悔い改めを求めたのです。そして、この要求に大勢の人々が応じました。5節の言葉です。「ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。」

これが神様が自分の民に望むことであり、過去の信仰の姿と変わったことだと思います。もはや神様は、ある民族の神様としておられません。イエス様の福音を通してみんなの神になるでしょう。そして、これらの信仰は、新しいパラダイムを引き起こすのです。戦争の勝利のために祈る信仰ではなく、罪の赦しを得るために祈る信仰になるのです。そのために、神様は過去の預言者たちの口を通してお知らせになりました。神様が準備される新しい時代があるということ。それがイエス様によって成し遂げられるということを預言させました。そして、私たちはその預言どおり、新しい時代の福音を受け入れた人々です。ですから、私たちの信仰は、自分の考えや欲望のための信仰に留まりません。神様の御心に従ってお互いを赦し、愛を実践することが私たちの信仰が目指すことです。皆のための信仰、これがイエス・キリストの福音、画期的な出来事の初めなのです。

今日の福音書の最後の節である8節で、洗礼者ヨハネはこう述べています。「わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」過去のユダヤ人たちは、律法によって治められました。それで彼らは、律法を守ること、肉についてのことだけを考えるしかありませんでした。しかし、イエス様の御名によって洗礼を授けられた私たちは、聖霊によって治められるのです。神の霊が私たちの中に入り、私たちを導くのです。それで私たちは、聖霊によって信仰の深いところで神様の御心も分かるようになります。神の戒めだけを守るのではなく、神の深みさえも究めること。これが私たちの信仰であり、マルコによる福音書が語っている福音の初めです。

待降節の第二主日。私たちは福音書を通して、イエス・キリストについてのすべてのことが預言されたことであり、キリストによって新しい信仰が生まれたことが分かりました。神様はこの信仰を通して、私たちにユダヤ人の信仰とは違う信仰を持つことができるようにさせました。この信仰によって、私たちは神様の御心が分かるようになり、その御心によって互いに愛するようになるのです。そして過去とは違うこの信仰は、この世に神様の御心がどんなものかを示させるのです。自分だけのための信仰ではなく、みんなのための信仰。この信仰が私と皆様とに与えられたのです。この信仰が皆様に導いてくれますように。この信仰による神様の御心が皆様を通してこの世に現れますように、主の御名によって祈ります。アーメン